

日時 令和6年6月10日（月）

午後7～9時

場所 松本市役所3階 第1応接室

～ 議事概要 ～

■会議事項

1 森林長期ビジョンの骨格について

- ビジョンが市民に伝わりやすい構成にすべきで、特にビジョンの最初で目指すべき姿を簡潔に示すのが良い。具体的には、市民向けにビジョンの骨格となる部分を最初に簡潔に示し、その後に施策を説明する構成が良い。また、市民に自分事として捉えてもらうために、ダイジェスト版や分かりやすい絵を使用すると効果的と考えられる。
- ビジョンでの「市民」「森林」「ビジョン」の定義を明確にし、松本市内に住む人だけでなく、働いている人や観光客も含めるべきである。また、ビジョンは市民がアクションを起こすきっかけとなるものでなければならない。
- イラストについては、具体的な地域名や施策を表現するのではなく、ある程度抽象度をもたせることで市民が各自で想像を広げてもらいやすいだろう。また、林業寄りの森林循環のイメージではなく、松本の特性に合った循環利用のイメージを作成することが重要である。

2 フォーラムについて

- フォーラムの構成について、以下が提案された。
 - ・ 第1部：三木委員長が森林長期ビジョンの骨子について説明。
 - ・ 第2部：参加者によるイベント企画提案のプレゼンテーションと質疑応答。参加者同士がアイデアを共有し、実施に向けた協力を呼びかける。プレゼンターがブースを設け、三木委員長もビジョンの組織づくりに関するブースを担当。
- 意見だけでなく、自分がやりたいという参加者を重視し、組織作りを通じて松本市が支援を行うことが必要である。
- 市からは、今後プレスリリースや松本市公式LINEで案内を広報する予定。委員自身も知り合いに参加を呼びかけるようにする。

3 委員長の聞き取りについて

- 松本市の森林に関わる関係者の意見を広く集めるため、アンケートやフォーラムでは話を聞けていない事業者に対して、6～7月に訪問して意見を聞く予定。
- 資料3のリストにある方々は年齢層が高い可能性があるため、課題としては今後若い世代にも意見を聞き、特に市民会議に参加してもらうための仲間作りとしての聞き取りが重要。

4 今後のスケジュールについて

- 次回の運営委員会では、第6章の推進体制の構築の検討に重点を置くべきである。フォーラムの参加者からの意見を踏まえ、具体的な組織体制の形を考える必要がある。
- 9月予定の運営委員会までにビジョンの内容をある程度固め、12月予定の運営委員会には内容をほぼ確定させる必要がある。

議事録要約

1 開会

(市)

定刻の時間となったため今年度第2回目の運営委員会を開催させていただく。お仕事終わりでの会議でお疲れのところ恐縮ではあるが、よろしくようお願い申し上げます。ここからは委員長に議事進行をお願いしたい。

(三木委員長)

今日は、ビジョン本文の細かいところというよりは、重要な項目が落ちていないかどうかを確かめるのが主体になる。それから、フォーラムが間近に迫っているため、そのことについても打ち合わせができるとありがたい。

2 会議事項

(1) 森林長期ビジョンの骨格について

(三木委員長)

それでは、早速会議事項に入りたい。最初にビジョンの骨格ということで説明いただきたい。

(環境アセスメントセンター)

※資料1-1、1-2、1-3の説明

(三木委員長)

資料1-3は、資料1-1のどこかに組み込まれるという理解で良いか。

(環境アセスメントセンター)

資料1-3については、5つのテーマごとに2ページの構成となっている。1ページ目は実現したい森林の将来像のような内容になっており、2ページ目は将来像を実現するための施策となっているので、資料1-1ではそれぞれ3章と4章に該当すると考えている。ただ、分けない方が良いという意見もあるかもしれないので、この場で検討して決めていただきたい。

(三木委員長)

この運営委員会の後に開催予定のフォーラムでは、ビジョンの概要も示さなければならないが、その際に重要となる内容は資料1-3かと思われる。

(環境アセスメントセンター)

こちらでも、フォーラムで紹介いただいて参加者の皆様に議論を深められたら良いと思ったのは資料1-3という認識である。そこへ行き着く経緯というか、市民の意見を概要的に整理したのが資料1-2と考えている。資料1-2をさらに整理したものと資料1-3がフォーラムで紹介する内容として適当ではないだろうか。

(三木委員長)

フォーラムで説明する立場からすると、資料 1-3 のテーマごとの 2 ページ目が特に重要と考
えている。また、フォーラムの限られた時間で説明することを考慮すると、このうち丸番号で
書いてある内容くらいになるかと思っている。そのため、丸番号で書いてある内容で何か抜け
ているものがあるのは良くないため、もしあればご指摘いただきたい。

(小山委員)

そもそもこのビジョンはフォーラムのために作るものではなく、最終的に誰が見るかという
ことを考えながら作らなければならない。これだけ厚みのあるビジョンが出来上がったら市民
は誰も見ないだろう。かといって、役所の施策を運営するためにはこのくらいの分量も絶対必
要とも思う。そこで私が考えたのは、まず役所対応としては、資料 1-3 のテーマごとの 2 ペー
ジ目に該当する施策の内容を充実させるということである。それぞれの施策について市のどの
課が担当するのかまで書き出す。一方で市民対応としては、一番伝えたいのはどこかという
と、資料 1-1 の 4~5 ページにある「3. 森林と市民との関係の将来像」かと思う。フォーラムで説明
するにしても、この骨格になる部分をまずきちんとこの時間で固めてはどうだろうか。その骨
格が固まったうえで、各施策の抜け漏れについてチェックすれば良いのではないか。要するに
市民に向けた部分と、市の行政の中できちんと動かしていくために必要な部分を明確にしてお
くことが必要ではないだろうか。

(三木委員長)

やはりビジョンという点を念頭に置くと、市民に「松本市の森林がこうなったらいいね、松
本市民の生活がこうなったらいいよね」ということを端的に示さなければならない。そのため
にビジョンの目次を変えるのか、それともダイジェスト版のようなものを作るのか、どうい
うふうに考えたらいいのだろうか。

(小山委員)

まず最初の数ページで、松本市民が我々の言いたいことを理解できる構成にした方が
良い。そして、その部分だけ切り離しても十分使えるようなダイジェスト版のような構成が
良い。要するに、一番骨格になる部分は常にフロントにある方が良い。役所の文章でよくある
フォアキャスティングの構成ではなく完全にバックキャスティングの構成で、最初に言
いたいことをきちんと配置する。その上で、どうしてそこに繋がるのかというフォアキャ
スティングの内容がその後続く。一般的な本で例えれば、バックキャスティングで最初
に言いたいことは口絵に該当する。目次の前に口絵は普通配置されていて、その口絵に
当たる部分をきちんと考えてはどうだろうか。ビジョンを何ページか読まないとい
番伝えたい口絵の部分が出てこないという構成では、読み手にうまく伝わらない
のではないだろうか。また、口絵の部分では、情報量をどれだけコンパクトかつ
シンプルに見せていくのかということが求められ、資料 1-1 の 4~5 ページを
うまく組み合わせた構成にすれば良いように思う。

(渡辺委員)

私も小山委員の意見に賛成で、市民の皆様がビジョンを見た時に、「何だか楽しそうだから自分でアクションしていきたい」というふうにも思ってもらえないと、3年掛けてビジョンを作ってきた意味がないように思う。「市民」という言葉がこのビジョンの中でたくさん出ているが、そもそも市民はどういった方々が該当するのだろうか。松本市に住所があるだけでなく、松本市で勤務している人も含めた関係人口まで含めるのか、観光で松本市を訪れる人はどうするのか。今回のビジョンを作るにあたって私は松本市に住所がある人だけではないと思っている。ビジョンで対象とする「市民」の定義付けとビジョンの目指していく方向性のすり合わせを今回の会議でできたら良いと思う。また、今回のフォーラムには間に合わないと思うが、来年度以降ビジョンは更新していくものだと思っており、高校生や大学生を交えて皆でビジョンのダイジェスト版を更新していくような、何かワークショップみたいなものを開いて、参加者が自分事として落とし込めると良いのではないかなと思う。せっかくビジョンを作っても冊子を作って終わりになってしまうと絵に描いた餅になってしまうので、そこをどうやって市民が自分事としてアクションしていけるかの仕掛け作りを考えていけたらと思う。

(三木委員長)

ビジョン策定後の見せ方としては、別に例えばパンフレットにするという方法や、ひよっとしたらビデオなども有効かもしれない。見せ方は本当に色々あって、それについてはこれから検討しなければいけないだろう。

(香山委員)

最終的にビジョンを冊子の形で作るのは必要だと思う。その冊子がこれから先、松本の市民、あるいはプロの事業者や行政関係者といった松本の森林に関わって何かをやろうとする人達にとって共通のテキストのようなものになれば良いと思う。もちろんこの程度の内容では、いざ具体的に行動を起こそうとすると内容が全然足りないのだが、逆に言うと、どんな課題があってこれから先どこに行き誰に聞けばいいのかということがビジョンを読んでいくと分かって、実際のアクションに繋がっていくことが期待される。一方で、森林の専門家ではない一般市民や子供達には、ビジョンがあることで森林と市民との関係の将来像を分かりやすく伝えることができる。また、6章の推進体制がどのような体制になるかによって、出来上がったビジョンの使われ方も相当変わってくると思う。ビジョンの構成としては、小山委員が言われたように、まずはぱっと見てすぐに何が言いたいのか分かるようにした上で、そこから現状と課題という流れにしていかないと、手に取った市民は読まなくなってしまう。よくあるフォアキャストの構成でビジョンを作ってその概要版を作るという流れは違うだろう。概要版は概要版でもちろんあった方が良くもしいないが、やはりビジョン本体の最初のところで何をやろうとしているのか、端的に分かりやすく記載するのはとても良い。

(小山委員)

先ほどビジョンは変化していくものというように渡辺委員は言われたが、私はどちらかというとアクションプランが変化していくと思う。この5項目の大きな枠組みについては、今まで3年間整理して、100%ではないかもしれないがそれなりにオーソライズされているのではない

かという理解である。この先何年か取り組んでいく中で、「6 番目があった」とか「1 番はいらなかったね」とかといった状況になったら見直せば良いと思う。まずはこの 5 項目についてどんな形でやっていけばいいのか具体的に検討されているのが資料 1-1 の 6 ページなのかなと思うので、今年度の残りはこの 6 ページの内容を詰めていくという作業と 6 章の取組みを推進していく体制の検討に注力する形になるのではないだろうか。そこのコンセンサスがとれると大分すっきりするのではないかと思う。

(三木委員長)

資料 1-1 の 4 ページにある 5 つのテーマについては、これまでもこの 5 つが妥当なのかどうかこれまでもずっと議論しているが、この 5 つを並列的に扱うのか、それとも例えば 5 つ目のテーマがベースにあるような見せ方をした方がいいのか迷うところではある。この 4 ページと次の 5 ページの断面図について、まず方向性を確定させていきたい。

(小穴委員)

5 ページを見て図が非常に分かりやすく、びっくりした。特に 4~5 ページの内容がビジョンのポイントを端的に表していると思われるので、この部分を更に詰めていければと思う。

(永原委員)

特にこの資料 1-1 の 5 ページの絵については、子供達には馴染みやすいと思う。更に欲を言えば、断面図も良いが、この中にある程度の情報を書き込むことを想定すると、鳥瞰図のような形で奥行きを出して、1 ページではなく見開き 2 ページで大きく見せる方が効果的ではないだろうか。

(環境アセスメントセンター)

鳥瞰図のことでいえば、表紙に入れてある写真は、第 1 回イベントで美鈴湖キャンプ場を訪れた際、そこからの景色が松本を象徴するとともに良い景色で強烈に印象に残っていたため、後日改めて晴天時に撮影したものである。この写真には松本市の東山から西方にかけてほぼ全体が入っていて、手前には松枯れが写っている様子も松本市の現状をよく表していると思っている。

(三木委員長)

まず優先的に 4 ページの内容を検討したい。真ん中に「市民のくらしのなかに森林とのふれあい木のぬくもりがある街 Matsumoto」とある将来像というかメインテーマについては表紙にも書かれているが、いずれ確定させなければならない。表紙を見た市民が最低でもこのメインテーマだけは認識してほしいので、ビジョンを端的に象徴するようなフレーズでなければいけない。このメインテーマの周りに配置してある 5 つの個別テーマについては、これで松本の森林を網羅していると思うが、まずはこの部分を確定させていきたい。

(環境アセスメントセンター)

メインテーマのポイントとしては、やはり現状は市民と森林との距離が離れてしまっている

ので、その距離を近づけていこうというメッセージを込めたほうが良いのではないだろうか。

(小山委員)

内容としては的を射ていると思うが、メインテーマとしては長いというのが難点かもしれない。

(香山委員)

この5つのテーマのイラストもすごく大事で、最終的にはこの5つのイラストが松本の森林ビジョンを表すシンボリックな位置付けとして使われ続けるような状況を生み出せると理想的だと感じる。5ページの断面図の方はむしろシンプルな方が良く、地域性をあえて排除することで、市民が自分の関わりたいところはどこなのかイメージが色々な方向へと広がりやすい。そういう点でも抽象度の高いこの断面図はすごく良いと思う。

(環境アセスメントセンター)

3Dにして奥行き感を出すと具体的な地域分かりやすくなって、抽象度が薄れるかもしれない。

(小山委員)

それはリアルすぎて現実を突きつけられているようで、あまり良くないのでは。ビジョンなので、あくまで目指す理想像を示せば良いのではないだろうか。

(香山委員)

イベントやワークショップなどで、理想像の絵を元に現状はどうなっているのか絵を描いてみましょうという企画だと面白いかもしれない。

(大田副委員長)

絵の方が想像が広がるので、あまり絵の中に文字は入れないほうが良いと思う。

(三木委員長)

この絵の中には「あがたの森」や「上高地の河童橋」、「美しの塔」などが描かれていて、松本市民が見れば松本だということが分かって、程良い抽象度でまとめられていると思う。あとは、例えば町の中に木造の公共建築物や木質バイオマス利用施設など、施策をイメージさせるパーツを入れ込めるとなお良いのではないだろうか。

(渡辺委員)

市長のメッセージが掲載される箇所あたりに、「ビジョンとは」「市民とは」「森林とは」という用語の定義を入れたい。このビジョンは森林整備計画を書きたいわけではなく、森林と市民とが近付けるような暮らし、まち作りをしていくために必要となる情報を丁寧に書き込みたい。

(小山委員)

最初にある「市民会議運営委員会からのメッセージ」で、この3つの用語の定義を入れてはどうか。

(三木委員長)

「市民」とは、松本市の住民はもちろんのことながら、それ以外の人達も含むということだろう。あまりに関係人口まで広げてしまうとよく分からなくなる可能性もあるが、広い概念であるということは確かである。それから「森林」も同様で、山だけではなく街の緑まで含めて森林と捉えているということである。「ビジョン」については、現状とその対策案という捉え方ではなく、「こういう松本市に暮らしたいんだ」という将来像が相応しい。こういった内容を「市民会議運営委員会からのメッセージ」に含めた方が良いと思う。将来像のイラストについては、やはり人が関与しているということに特に配慮しながら、うまく表現できたらと思う。

(小山委員)

現状のイラストには子供と親しか描かれていない。体が不自由な人やお年寄りといった方々にも利用しやすい森林でなくてはならないので、例えば車いすに乗っている方であったり、お散歩されている年配の方などが描かれていると良いのかも知れない。他には子ども達が遊んでいる様子とか。

(三木委員長)

フォーラムで説明することを考えると、資料1-3で足りていない内容がないかという点が気になる。黒丸の内容は具体的な政策になるため、今回は案として確認する程度が良いが、丸番号の内容はやはり欠けがあると良くないと思っている。

(小山委員)

テーマ3「来訪者を迎える景観・自然を守り育てる」に「①山岳観光に資する魅力ある景観、自然の保全」とある。山岳観光だけではなく、市民が日常的に触れ合う街なかの景観に関するキーワードがないので、入れた方が良いのではないかと。日常にある街なかの緑空間の保全のようなイメージである。行政でどの部署が担当するのか微妙なところではあるが、この部分を入れてほしい。里山景観ということになるかもしれない。松本への来訪者が必ず山岳地の上高地に行くわけではないだろうし、そこに里山の景観も対象として重なっても良いと思う。要するに、住民目線か来訪者目線か、視点の違いではないだろうか。

(三木委員長)

他にもお気づきの点があれば。

(渡辺委員)

福祉の面でも、車いすに乗っている方をイラストに書き込むのは大賛成である。森林と関わるのは健全者だけでなく、福祉に関わる方も当然含まれる。そういったイメージがうまく伝わると良い。また、林野庁の白書にもあるような環境と循環の部分をもう少し入れたいと思う。

(三木委員長)

林野庁の白書にあるイラストは、当然のことながら林業寄りで、松本の場合、植えた木を林業目線でのどのように循環させるのかという視点はうまく当てはまらないかもしれない。ただ、循環利用するというイメージは大切なので、松本の特性に合わせた森林の循環利用のイメージ図をうまく考えていく必要があると思われる。

(小山委員)

ビジョンでは、おそらくテーマ2「市民のくらしのなかに地域の木材を」で表現すべきものなのだろう。渡辺委員が先程言われた環境の部分については、テーマ4「市民のくらしを支える森を守る」の「②公益的機能（水源かん養、土砂災害防止、生物多様性保全など）が発揮される森林づくり」に該当するのではないかと思われる。

(三木委員長)

林野庁の白書にあるイラストは、当然のことながら林業寄りで、松本の場合、植えた木を林業目線でのどのように循環させるのかという視点はうまく当てはまらないかもしれない。ただ、循環利用するというイメージは大切なので、松本の特性に合わせた森林の循環利用のイメージ図をうまく考えていく必要があると思われる。

(2) フォーラムについて

(三木委員長)

このあたりでそろそろビジョンの内容から離れて、議題2のフォーラムについて協議したい。資料2のフォーラムのプログラムについて、事務局から説明願いたい。

(市)

※資料2の説明

(三木委員長)

第1部は森林長期ビジョンの骨子について、私の方から簡単に説明できればと思っている。第2部は、プレゼンテーションの内容は今年これから実施するイベントの企画提案ということになる。プレゼンテーションしてもらって、それに対して質疑応答するというのも良いのだが、それよりはプレゼンテーションした人とフォーラム参加者が「それ一緒に今年やりましょう！」みたいな形にできれば良いというイメージを持っている。今年実施するのが難しければ来年でも良い。我々委員もこのフリートークの中に混ざって話を盛り上げられると面白いのではないかと思う。また、第2部はそれぞれのプレゼンターがブースを作るようなイメージであるが、その中に私の担当するブースも作っておいて、そこでビジョンに関する意見を頂いたり、市民会議が今後どういう組織であったり、どういう運営体制であったら良いかというような話もできたらと思っている。

(小山委員)

司会をする立場からすると、三木委員長のプレゼンは今上がっている 3 つのプレゼンの次の 4 番目をお願いしたい。三木委員長のプレゼンでは、イベントを実行する組織作りに関する内容だとありがたい。イベント自体のプレゼンも大切だが、それを後方支援する組織をどのように構築していくのかもとても大切である。フォーラムの第 1 部と第 2 部との連続性を考えた時に、第 1 部のビジョン骨子の説明を受けて、今年度から次年度に向けてどうしていったらいいのかという繋がりを持たせたい。その際ビジョンを具現化していく作業として、組織作りが大切になってくる。

(三木委員長)

組織作りに関しては第 1 部で少し触れるつもりだったが、第 2 部で取り上げることにしたい。

(小山委員)

組織づくりについて興味や意見のある参加者は、三木委員長のブースに行って話してもらえば良い。その際、更にもうその方々を組織づくりの一員として引き入れていくのが良いだろう。

(三木委員長)

これからは意見だけの人はいない。意見を持ってなおかつ「自分がやりたい！」という参加者を大切にしたい。それで今、例えば仲間がいないとか資金がないとか、そういう理由で実行に移せない人に対して、この組織づくりを通じて松本市が支援し具現化を図っていかなければならないと思っている。

(渡辺委員)

フォーラムの参加者について、総合戦略地域作り課、移住推進課、消防防災まち健康作り課、こども部、環境エネルギー部農政課、文化観光部公園緑地課、住宅課、教育政策課、学校教育など縦割りを超えた部長・課長をお呼びし、松本の未来を考えたい。

(市)

関係部署の部課長には周知しているが、必ず参加ということになると難しいかもしれない。

(小山委員)

私自身としては、参加していただくのであれば第 2 部の方かと思っている。第 1 部の方は、庁内協議の中でいくらかでも意見を言える機会があるだろう。一方で、第 2 部は市民との距離を縮める絶好のチャンスなので、関係各課で意欲のある方がいらっしゃれば、是非第 2 部への参加をお願いしたい。市民と話し合っていたく中で、うまく横の連携を図れることに繋がれば良い。

(三木委員長)

森林について思っていることがあっても、部署が違うので出来ないと思っているような職員

がいらっしゃったら是非来ていただきたい。それから、市民が話し合っている中で「何かこういうことを市民と一緒にできたら面白そうだな」というふうに思っていたきたい。松本市森林再生市民会議のファンを市役所の中にも作っていかなければならないと思う。

(小山委員)

「それはできない」とか後ろ向きのことを言うのではなく、前向きのご提案をいただけるような方に来ていただきたい。なかなか難しいとは思いますが、そういった意図であることをお伝え頂けるとありがたい。

(三木委員長)

フォーラムでプレゼンテーションする人はさることながら、一般参加者も増やさないといけない。引き続き広報などよろしくお願ひしたい。委員の皆さんも自分の知り合いとかにお声掛けいただきたい。

(市)

プレスリリースはさせていただく。ホームページには掲載済みで、今週中には松本市公式 LINE にも案内を掲載する予定である。

(3) 委員長の聞き取りについて

(三木委員長)

次に「(3) 委員長の聞き取りについて」は、資料 3 を見ていただきたい。これは何を意味しているかという点、森林ビジョンには松本市の森林に関わる関係者の意見をなるべく網羅したため、これまでアンケートやフォーラム、イベントでお話を聞けていない事業者の方々を対象に、少なくとも資料 3 にリストアップした方々には聞きに行こうと考えている。予定としては 6~7 月に伺って、「今度こういうビジョンを作ろうと思うんですけど、いかがでしょうか？一緒にやりませんか？」という話をしたい。

(渡辺委員)

もっと若い人の意見を聞けたら嬉しい。木工作家、飲食店、宿泊業、保育関係など。あとは地区区分ももっと分けて聞けたら嬉しい。乗鞍、上高地、安曇、四賀、中山など。

(三木委員長)

個人的な伝手で聞きに行くというのは、私を含め委員の方々もどんどんやってもらって良いと思っている。資料 3 のリストにある方々は、だいたい「〇〇長」と付いているので、そんなに若くないかもしれない。確かにもっと若い世代に是非話を聞きに行かなければならないと思うが、その際、その相手の意見を聞くというよりは、特に若い世代の人達に話を聞く時はやはり「この後の市民会議に加わってください」という意味での聞き取りというか、仲間作りの意味合いを込めて、これからどんどん活動していかなければならないと思っている。

(4) 今後のスケジュールについて

(三木委員長)

最後に、「(4) 今後のスケジュールについて」を事務局から説明願いたい。

(市)

※資料4の説明

(香山委員)

そうすると、次回の運営委員会で重点を置かなければならないのは、実施計画についての議論ということになるか。ビジョンの章立てでいうと6章ということになる。

(小山委員)

フォーラム開催を受けて、フォーラムに参加した人達の中で本当に組織を構築できるのか、もう少し頑張れば形になりそうなのかなど、次回のフォーラム後の委員会で6章を固める必要がある。

(渡辺委員)

当初8~10月頃にパブコメ予定だったが、12月になってしまうのか？

(三木委員長)

この後庁議と議会審議へ説明することを考えると、パブコメはどうしても12月になってしまう。これは動かしようがない。ただ、パブコメは行政上必要な手続きであって、正直申し上げると、市民の意見をパブコメで集めて反映するというのはあまり現実的ではないと思っている。手続きが面倒でパブコメを介して意見を伝えてくる人は通常あまりいない。そのため、やはりこのビジョンの内容の細々した点についての意見は、委員である我々が個々に市民の知り合いなどに見せて、意見を頂くしかないと思う。8月くらいの段階では、ビジョンの案が出来上がってくる予定なので、その段階で聞き取りを行うのが効果的ではないだろうか。

(小山委員)

この後、第4回と第5回の運営委員会までの間は、多少我々でも修正できる。第4回運営委員会が開催される予定の9月までは、修正の融通は聞きやすく、12月予定の第5回運営委員会の段階では、内容をほぼ固めなければならないのではないだろうか。

(三木委員長)

12月になると、あとは細々とした言葉の修正くらいになると思われる。これで今回の運営委員会の議事に関する協議は終了とする。進行を事務局にお返りする。

(市)

ビジョン作成の考え方について、議論が十分出来たのではないかと思う。これを軸としてビ

ジョン作成を進めていきたいので、引き続き皆様のお力添えをお借りしたい。これで令和⑥年度第2回目の運営委員会を閉会とさせていただく。